

グアム報告書レポート



東海大学 4年 9AGS1122 野口 竜光

今回初めて教わる側から教える側になってみて学んだこと、グアムの人達と過ごした日々、グアムというところはどのようなところかについてレポートしたいと思います。

まず、現地に着いて生徒が自分たちのことを先生！と呼ぶ事にかなりの抵抗がありました。自分は今まで人に教わることはあっても、自分が人に教えるということはやったことがなく、教えるということがこんなに難しいことなのかという事を最初に感じたと同時に、教えたことを実行させることが出来た時、こんなにも嬉しいことなんだということを学ぶことが出来ました。

自分は背負い投げ、一本背負い、を主に担当し、一日目は背負い投げ、二日目は一本背負い投げ、三日目は大内刈り～背負い投げ又は一本背負い投げという流れで指導をさせていただきました。一日目から大学でやっている準備体操をやりながらみんなで体を慣らしていくと、一つ一つの動きを真剣に見て学んでいるなぁという感触がありました。

受け身の指導もしなきゃと思っていたのですが、思った以上に受け身が上手く言う事はありませんでした。背負い投げの指導について一つ一つ足のステップや手の動きなどを説明しながら講習していると、質問の声が交差し、とても貪欲に柔道を学ぼうとしているなぁというのがすごく伝わってきて、自分にとってはとてもやりやすい講習になっているなぁという実感がありました。まだ柔道自体あまりレベルは高くないですが、現地の人みんな寝技が強くとても練習熱心でした。なぜ寝技が強いのか？と聞いてみたところグアムでは柔道よりも柔術のほうが盛んで、みんなブラジリアン柔術を学んでいるからだそうです。中にはブラジリアン柔術の16歳の世界チャンピオンなどもいて、柔術のレベルは高いんだなぁと思いました。これから立ち技を大いに磨いて、技を極めていけばグアムの人達のレベルはとても高くなるのではないかと思ました。

最終日の前の日に橋本先生の講習があり、その日の練習は「五つの形」を学ぶというのが主な練習内容となりました。グアムの人達が形というのを見るのもやるのも初めてで凄く興味を持ってやっていました。日本で若い人達が形に興味を持つということはほとんどないから、形までも真剣に学ぼうとする姿は日本には絶対にない姿だなぁと思いながら一緒に形をしていました。最終日も本当は練習だったのに、みんなが形をしたいということで急遽形の発表会になりました。それほどみんな形に興味を持ってくれたということでしょう。



次にグアムの人達と過ごした日々についてです。自分たちは練習以外は主にリック jrさんと一緒にすごしました。有名な海に連れて行ってもらったり、練習の後の夜は毎日BARに飲み連れて行ってもらっていました。グアムの人達はいつもテンションが高くとても溶け込みやすい人ばかりで、とても楽しい時を過ごすことが出来たと思います。パーティがとても好きなようで、一週間しかいなかったのに三回もパーティに招待されました。常に豪華な肉を用意してくれていたのでも、とても太った気がします。という感じでとても楽しく一日一日を過ごさせていただきました。



最後にグアムというところについて、グアムはスペインの植民地になり、次に日本の植民地になり、今はアメリカの管轄になっているため、いろんな文化がありとてもいいとはいえない歴史がたくさんあることを現地に行ってとても体感しました。自分が印象に残っているのは、最終日の前日にお墓参りにいった場所です。そこには山の下に道がありそこを下っていくと日本兵が隠れていたとされる隠れ基地が二つありました。ここで実際に日本兵が殺されていることを聞いて本当に心がゾクッとしましたし、改めて戦争の恐ろしさを知った気がします。そう考えると米軍の飛行機などたくさん飛んでいるし、グアムの島の外側はほとんど米軍基地だし、グアムの人達はとてもテンションが高い人ばかりだけど、苦しんでいる部分もあるんだなぁと少し感じました。

今回グアムに柔道の指導で行ったわけですが、本当に貴重な体験をした気がします。柔道の指導はもちろんのこと、グアムの副知事、グアム大学学長と面会したり、グアムの歴史に触れてみると、とても自分の人生においてとてもプラスになる体験をしました。このグアムでの指導に自分を推薦してくれて本当にありがたい気持ちでいっぱいです。いかせてくださったNPO法人の皆様に感謝し、この学んだことを自分の人生に役立てて生きていきたいと思います。本当にありがとうございました。

